

えいでん 100th 新聞

今年で100年！ 叡山電鉄の歴史

叡山電鉄は1925年に出町柳から八瀬まで電車を走らせて、もうすぐ100年になります！1942年には京福電鉄に合わさりましたが、1986年に「えいざん電鉄」として新しくスタート。1986年には京阪電車とつながり大阪へも行きやすくなりました。

コロナ禍を経て

コロナでお客さんが少なくなり、売り上げがへってしまいました。そこで2023年に運賃を少し見直しました。その後、観光のお客さんや地域の人の利用もどおり、2024年には売り上げも回復してまじなぐ電車として、人々のくらしをささえていきます。

みんなにやさしい電車へ

だれでも使いやすい駅づくりとして、茶山・京都芸術大学駅では、ホームの高さを合わせて電車との段差をなくし、車いすやベビーカーも安心して乗れるようにしました。スロープや点字ブロックもつけて、目の不自由な人やお年寄りにもやさしい駅になっていきます。木を使ったあたたかいデザインで、見た目もすてきです。

ヤバ ケンジの作品が目印の階段とスロープがある。



段差を無くした、ホーム



デザインで、見た目もすてきです。

ちよこっとコラム1
岩手と京都の電車が毎年一緒にいる「悠久の風」のイベントでは、馬にたくさんの南部風鈴をかざります。鞍馬駅の鞍馬馬車では約200個、三陸鉄道の宮古駅では約40個の風鈴がならび、きれいな音でお客さんをおかえます。鞍馬馬車での風鈴の売り上げの一部は三鉄におくられ、みんなのやさしい気持ちが電車を支えています。



四季の景色を楽しむようにデザインした座席で、京都や鞍馬へ向かう道中を楽しめます。



注目！新しくデビュー展望列車「舞（まい）」



1997年10月に登場した展望列車「やまぐみ」は、景色を楽しむことができます。



デコ730形車両は1986年12月に登場しました。731号車は開業当時のデザインをイメージした「ノスタルジック」なカラーリングで、732号車は観光列車「ひまわり」のカラーリングで運行しています。

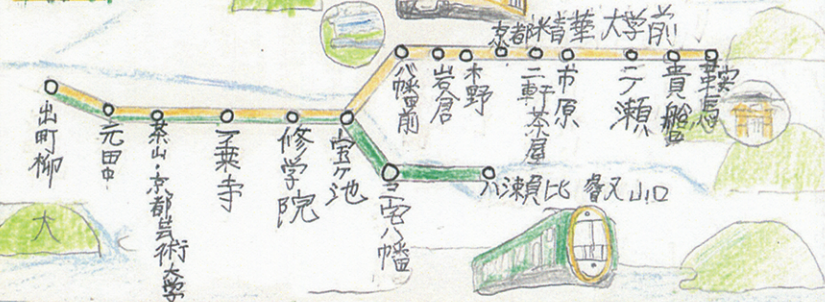


古い車両をいかにしながら新しいデザインでみかめをのせて

主要車両紹介

修学院小学校
5年
布施周也

えいでん MAP



エネルギー問題を 駅長さんに質問！ 電車のひみつ！ 回生ブレーキ

電車には、ちよこっとすごいのブレーキ、「回生ブレーキ」が使われています。ふつうブレーキをかける時、走る力は熱になって消えてしましますが、回生ブレーキは、その力をムダにしません。電車のタイヤがモーターを回す時、モーターが発電機にかえ身！走る力を電気にかえてバッテリーにためるのです。ためた電気は、また電車を走らせるエネルギーに使われます。回生ブレーキは、地球にやさしいかっこいい電車なのです。

利用者の声

観光客も住んでる人も多く利用する電車！
車両のデザインや名前が面白い！
四季を身近に感じる電車。シーズンに応じて工夫されている。
通勤通学に必要。バスが無いから回電がないと困る。

アートとコラボなまちづくり

回電の沿線には、京都精華大学と京都芸術大学という2つの芸大があります。そのおかげで大学生と一緒にアートの活動が広がっています。電車の中が美術館のようになったり、町で作品展がはじかれたりの開校する学校への「ありがとう」を作品にすることもありました。えいでんはアートの電車。のる人も、地域の人も、楽しい気持ちになります。

編集後記

様々な方々に協力いただき、楽しく記事を書くことができました。ありがとうございました。